

G20、ラグビーワールドカップ、東京オリパラに向けて 外国メディアを活用した海外広報を行いませんか

2018年9月

公益財団法人フォーリン・プレスセンター

事務局長 嵯峨濃 明子

2019年のG20首脳会合・閣僚会合、ラグビーワールドカップ及び2020年の東京オリンピック・パラリンピックは、開催地はじめ日本各地が世界から注目を集める絶好の機会です。在日外国メディアを対象とした広報プロジェクトで、報道を通じて地域の魅力を発信しませんか。外国メディアへの支援活動に40年に亘る実績と経験がある、公益財団法人フォーリン・プレスセンターがお手伝いします。

1. 在日外国メディアを対象としたプロジェクトの有効性 ～日本をよく知る各国の大手メディアに低コストでアプローチ～

(1) 在日外国メディアへの働きかけが効果的なワケ

現在日本には、**25か国・地域 151機関 425名**の外国メディア特派員がおり、これら特派員に働きかけるメリットがたくさんあります。

① 働きかけにかかるコストが低い

既に日本に駐在しているので、渡航費等がかかりません

② 日本についての知識が深い

掘り下げた取材ができます（本国で「日本スペシャリスト」として高い評価を得ている記者もおり、その発信する情報は現地で信頼が高く、影響力も大きいです）

③ 繰り返しアプローチが可能

関心を集めるチャンスを増やすことができます。

④ 潜在的な関心の掘り起こしや地域の知名度アップに更に期待大

ロイター通信（米）、ファイナンシャルタイムズ（英）、新華社通信（中国）など、各国を代表する主要メディアが東京に特派員を置いています。これらのメディアが発信したニュースは、これまで必ずしも日本に関心を寄せていなかった多くの海外の読者、視聴者の目や耳にも触れ、取り上げられた地域に関する彼らの理解や興味が深まるでしょう。このように、主要ニュースメディアによる報道は、特に欧米を中心に潜在的な日本への関心の掘り起こしや、海外での知名度アップに大きく貢献

することが期待されます。

(2)「広告」でなく「報道」に期待されるメリット

①読者・視聴者が信頼性の高い情報として認知

報道（記事・番組）は広告と異なり「宣伝」ではないので、客観的で信頼性の高い情報として、より説得力のある形でメッセージを読者や視聴者に届けることが出来ます。

②コストパフォーマンスの高さ

新聞や雑誌への広告掲載やインターネットや地上波を含む映像放映枠の買い上げには、場合によっては数百万・数千万単位で経費がかかります。一方で、地域の情報が報道（記事、番組）として取り上げられる場合は、経費を大幅に抑えることができます。記者が現地を訪れ、取材する環境を整えさえすればあなたの地域の話題が世界に拡がるかもしれないのです。

＜大きな広報効果をあげた事例：長崎県壱岐市プレスツアー＞



スイスの新聞（NZZ 紙）がツアーの取材内容（漁業、離島の産業活性化、観光スポット）を報道。

後日、日本人ブロガーが、スイス滞在中「何度もスイス人の会話で話題になった場所がある」として壱岐を紹介、ニュースメディアの影響力の大きさを紹介している。

NZZ 紙の記事リンク

<https://www.nzz.ch/wirtschaft/hartes-brot-auf-der-japanischen-insel-iki-ld.1316731>

2. フォーリン・プレスセンターがご用意する広報ツール ～2019年、2020年に向けた切れ目のない広報のために～

STEP 1 地域の特徴ある情報を積極的に発信していきましょう

⇒ 【プレスリリース配信サービス】

まず、皆さまのまちが外国メディアの関心のレーダー内に入ることが重要です。

他のまちにはない魅力や特色、課題（少子高齢化、過疎化、環境、地域経済振興等）

に対しての先進的な取り組み、地域の魅力を伝えるイベントや国際交流事業などの情報を、プレスリリースにまとめてみて下さい。そして、フォーリン・プレスセンター独自の配信網を使い、25 各国・地域 151 機関 425 名の在日外国特派員に積極的に届けましょう。プレスリリースへのアドバイスも致します。

STEP 2 外国メディアに向けて都内で直接アピールしましょう

⇒ 【プレスイベント・サポート】

都内のアンテナショップ・レストラン等で、首長によるプレゼンテーション、地元食材を使った料理の試食など地域の魅力を外国メディアや大使館関係者に直接アピールしてみませんか？外国メディアを知り尽くしたフォーリン・プレスセンターならではのノウハウで、記者や大使館関係者が関心を寄せるイベントにすべく、企画やプレスリリースによる周知についてしっかりアドバイス・サポート致します。

<実施事例> 富山県主催 昼食懇談会「富山県の魅力を知る・味わう」

- ・実施日：2018年2月1日
- ・会場：日本橋とやま館
- ・参加者数：20名（外国メディア10名、大使館関係者10名）



（左）県関係者のプレゼンテーションを聞く外国記者



（右）食の魅力PRのため、富山湾の新鮮な魚や新品種の県産米がふるまわれました

STEP 3 地域の魅力を世界各国の報道につなげていきましょう

⇒ 【プレスツアーの実施】

フォーリン・プレスセンターでは、自治体・公共団体等からの依頼を受け、外国メディアの特派員を地域に招き、取材機会を創出し、報道に導く「プレスツアー」の企画・運営を行っています。参加メディアにより、世界各国での地域の魅力が報道されており、地域から海外への情報発信に成果をあげています。設立以来 40 年強の間に計 500 件のプレスツアーを実施した実績と経験があります。

プレスツアーでは、センターが自治体のニーズを聞き取り、**外国メディアが関心を示す「ニュースになる」切り口や内容、構成**を提案し、企画立案のお手伝いをします。日々外国メディアと仕事をする中で培ってきた経験により、その自治体ならではの魅力や特徴を、彼らにいかに伝えるかという部分で皆さまのお役に立てると確信しています。

ツアー実施にあたり、担当者は現地調査を行い、取材内容を具体的に紹介する記事を日本語・英語で作成します。これを在日外国メディアの記者に配信し、参加記者を募集します。取材当日は東京からの全行程記者を引率し、取材現場では進行を管理します。帰着後は報道の収集やアンケートも行うなど企画から報道の収集まで一貫してお引き受けします。

<実施事例> G7 閣僚会合開催を契機とした長野県プレスツアー

- ・実施日：2016年6月（1泊2日）
- ・テーマ：国際観光地、上高地の魅力と長野県の健康長寿社会の取り組み
- ・主催：長野県（G7 交通大臣会合長野県推進協議会事務局）／松本市
- ・参加メディア：10社（米国、ドイツ、フランス、イタリア、デンマーク、中国、台湾、ベトナム、シンガポール）
- ・TV2社、新聞社7社、通信社1社
- ・報道件数：63件

上高地の山々の前で撮影する外国記者たち。
彼らの報道によって、世界各地でその美しさや文化・歴史的な魅力が紹介されました



フォーリン・プレスセンター (<http://fpcj.jp/>) は、日本に関する多様で正確な報道が世界中で行われることを目指し、1976年の設立以来40年以上、外国メディアの日本での取材活動を支援してきた公益法人です。

私たちは、これまで培った経験を活かし、世界からの注目が集まる2019年及び2020年に、自治体の皆さまと共に、地域の魅力を外国メディアが知り、世界に発信する機会をつくっていきたいと考えています。
自治体の皆さまからのご相談・ご依頼を随時受け付けています。ご興味を持たれましたら、お気軽にご連絡下さい。

<お問い合わせ先>

公益財団法人フォーリン・プレスセンター 広報戦略課

〒100-0011 東京都千代田区内幸町2-2-1 日本プレスセンタービル6階

Tel: 03-3501-5251 (直通) | Fax: 03-3501-3622 | sc@fpcjpn.or.jp